

## 輸血関連検査

検査項目	検査の説明
血液型検査	輸血に必須な血液型検査にはABO,RhD血液型があります。ABO血液型検査には赤血球膜上のA抗原,B抗原を検査するオモテ検査と血漿(血清)中の抗A,抗Bを検査するウラ検査があります。オモテ検査とウラ検査の結果が一致して初めてABO血液型が確定になります。
不規則抗体検査	輸血歴や妊娠歴のある方は、輸血する血液と反応する抗体を持っている場合があります。輸血前に不規則抗体の有無を確認し、抗体がある場合にはその種類を特定することで適合する血液を速やかに準備することができます。
直接抗グロブリン試験	赤血球膜上に結合した赤血球抗体の有無を調べる検査です。
間接抗グロブリン試験	血漿中に存在する赤血球抗体の有無を調べる検査です。
交差適合試験(クロスマッチ)	輸血をする前に受血者(患者)と供血者(輸血用血液製剤)との適合性を確認するための重要な検査です。
骨髄像	骨の中にある骨髄液を採取し検査します。造血器腫瘍の診断・治療効果の判定、悪性リンパ腫の骨髄浸潤の有無の確認(病期分類)、末梢血液の各血球(白血球・赤血球・血小板)の増減の原因検索などのため行います。骨髄組織を採取する骨髄生検も同時に行うことがあります。